

令和2年度 学校関係者評価報告書

大阪市立玉造幼稚園 学校協議会

1 総括についての評価

今年度は新型コロナウイルス感染症対策に追われる中で、できる範囲で工夫をしてよく取り組んでいた。本年度の自己評価通りに、教育活動に取り組んでいることが分かる。アンケート結果は、全体的にどの年度目標についても幼稚園の取組に対しての評価は高く、妥当であると評価する。今年度の取組と成果を振り返り、来年度に生かしてほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和2年度の保護者向けアンケート調査で「安全な生活に必要な習慣が身についていますか」の項目について肯定的回答率の割合を80%以上にする。
- 令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「幼稚園は、相手のことを思いやって、かかわろうとする子どもに育てようとしていますか」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。

- 達成状況は妥当である。保護者アンケートではどちらの項目でも肯定的回答率が高く、内容的にも達成できている。
- コロナ禍の中で、子どもたちが安全に活動できるように工夫をして取り組んでいた。それが、子どもたちが新しい生活様式に対応できるような習慣も身につけていることが窺えた。
- 接触する活動が難しい中、できないからやめる、迷ったらやめるではなく、できることを考えて、園全体で連携し、各クラスの子どもたちがお互いを気にして関わられるように保育が工夫されている。子どもたちの心が育っていることも窺えた。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「さまざまな活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいますか」の項目について、肯定的回答率の割合を85%以上にする。
- 令和2年度の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を身につくように努めている」の項目について、肯定的回答率の割合を、80%以上にする。
- 達成状況は妥当である。保護者アンケートではどちらの項目でも肯定的回答を得ることができた。
- 広い園庭、自然を生かして保育をすることは、この幼稚園ならではの取組である。野菜や果実の生長の過程での発見だけでなく、自然現象の不思議さにも気付いたりしながら、それを遊びに取り入れ、様々な方法で表現していることがよい経験となっている。幼稚園での経験が家庭でもつながっていることが分かる。
- 今年度は特に手洗い、うがいの指導を工夫されていた。実験的なものは子どもの心をくすぐり、うがい、手洗いの重要性に気付くことにつながり、生活習慣として身につけている。

3 今後の学校運営についての意見

- このコロナ禍の中でも、日々の子どもの様子や保護者アンケート結果から、幼稚園での教育がしっかりと実践されていることが分かった。子どもたちが安全に活動できるように工夫されている。
今後も、新型コロナウイルス感染症対策の中で教育活動となるだろうが、今年度の取組を生かして、子どもたちのために教育の充実に努めてほしい。
- 幼稚園と家庭と地域で子どもを育てていくことが大切である。今年度、地域としても行事も中止をせざるをえなかったが、今までのつながりが途切れることのないよう、今後もこの地域の幼稚園として、教育を大切にしながら保育の充実に努めていってほしい。